

昭和五十九年度 研究所報告

一、組織

一、所長 武田武磨

一、主事 片野道雄

一、研究所委員会 廣瀬 杲學長・福島光哉文學部長・花山大成事務局長・鍵主良敬大学院文學研究科長・小野蓮明
短期大學部長・友田孝興學生部長・藤島建樹圖書館長・高橋憲昭教授・寺川俊昭教授・長崎法潤
教授・山本唯一教授・新村祐一郎教授・藤田昭彦助教授

一、昭和五十九年度研究班

指定研究〈特定研究〉

◎研究名 真宗學事研究

研究課題 「真宗學事資料の研究」

代表者 学長 廣瀬 杲

研究員 大桑 斉（チーフ・教授・日本仏教史学） 江上淨信（助教授・真宗学） 鈴木幹雄（助教授・倫理学）

若槻俊秀（助教授・中国文学） 武田武麿（所長・教授・宗教学） 片野道雄（主事・助教授・仏教学）

嘱託研究員 木場明志（助手・国史学） 草野顕之（前特別研修員・日本仏教史学） 経隆 優（博士課程修了生・

真宗学）

研究補助員 深田虎雄（博士課程修了生・日本仏教史学） 一楽 真、片山 伸、金石 忍、熊木 剛（以上博士

課程）

◎研究名

研究課題

「海外における仏教研究の文献・資料に関する研究」

代表者

学長 廣瀬 杲

研究員

長崎法潤（チーフ・教授・インド学） 白土わか（教授・仏教学） 寺川俊昭（教授・真宗学） 箕浦恵了（教授・西洋哲学） 安富信哉（専任講師・真宗学） 武田武麿（所長・教授・宗教学） 片野道雄（主事・助教授・仏教学）

嘱託研究員

今井亮徳（開教使・在米） 今枝由郎（フランス国立中央科学研究所研究員） 大河内了義（神戸大学教授） リノ・ベリーニ（本学非常勤講師） ジャン・ノエル・ロベール（フランス国立中央科学研究所主任研究員・高等学院講師） 宮下晴輝（助手・仏教学） ロバート・ローズ（本学非常勤講師）

研究補助員 山野俊郎（博士課程）

指定研究〈委託研究〉

◎研究名 西藏文献研究

研究課題 「大谷大学所蔵の北京版西藏大藏經及び藏外文献の文献研究」

代表者 廣瀬 杲

研究員 小川一乘（チーフ・教授・仏教学） 片野道雄（助教授・仏教学） 小谷信千代（専任講師・仏教学）

嘱託研究員 白館戒雲（ツルティム ケサン・本学非常勤講師）

研究補助員 松田和信（前特別研修員・仏教学）

◎研究名 大藏經學術用語研究

研究課題 「浄土教関係典籍における學術用語の総合的研究」

代表者 廣瀬 杲

研究員 古田和弘（チーフ・教授・仏教学） 神戸和磨（教授・真宗学） 木村宣彰（専任講師・仏教学） 延塚

知道（専任講師・真宗学）

嘱託研究員 一色順心（助手・仏教学）

研究補助員 江馬耀準（博士課程修了生・真宗学） 織田顕祐（博士課程）

一般研究〈共同研究〉

◎研究テーマ 「『教行信証』章節の共通表示化への研究」

代表者 幡谷 明教授

研究員 幡谷 明（教授・真宗学） 安富信哉（専任講師・真宗学）

研究補助員 池田 理（大谷専修学院助手） 畠山正信・武田定光（いずれも博士課程） 金信昌樹（修士課程） 畑

辺初代（修士課程修了生）

◎研究テーマ 「真宗寺院史料の研究」

代表者 大桑 斉教授

研究員 堅田 修（教授・国史学） 北西 弘（教授・日本仏教史学） 大桑 斉（教授・日本仏教史学）

嘱託研究員 上場顕雄（本学非常勤講師）

◎研究テーマ 「近代文学における仏教的諸相」〔継続〕

代表者 渡辺貞麿教授

研究員 渡辺貞麿（教授） 石橋義秀（助教授） 喜多川恒男（専任講師） 入部正純（専任講師）

嘱託研究員 仲野良一（本学非常勤講師）（以上いずれも国文学）

◎研究テーマ 「保育者養成機関における宗教教育の現状と課題」

代表者 松村尚子助教授

研究者 松村尚子（助教授・社会学） 藤田昭彦（助教授・心理学） 土戸敏彦（専任講師・教育学）

一般研究（個人研究）

◎研究テーマ 「ゲーテの『ファウスト』研究——『ヴァルプルギスの夜』について——」

研究者 岸 繁一教授

嘱託研究員 友田孝興（助教授・独文学）

◎研究テーマ 「ツォンカバ造『了義未了義論善説心髓』の解読研究」

研究者 片野道雄助教授

嘱託研究員 白館戒雲（ツルティム ケサン・本学非常勤講師・仏教学）

二、「研究所報」の発刊

第一〇号

- 一、研究所の課題……………武田武磨
- 一、昭和五十九年度「指定研究」研究計画紹介
- 〈昭和五十八年度「指定研究」研究経過報告〉
- 一、真宗学事資料の研究……………経隆 優
- 一、海外における仏教研究の文献・資料に関する研究……………ロバート・ローズ
- 〈海外仏教研究・研究会報告要旨〉
- 一、Shin Buddhist Studies and America Today……………Thomas P. Kasulis (ノースランド大学教授)
- 〈昭和五十八年度「一般研究」研究概要〉
- 一、大谷大学所蔵西藏蔵外文献の歴史的・思想的位置づけに関する研究……………小川一乗
- 一、近代文学における仏教的諸相……………渡辺貞磨
- 一、蓮宗宝鑑の研究……………安藤智信
- 一、華嚴教学に受容された起信論の思想的研究……………鍵主良敬
- 一、日系アメリカ人の教育意識に関する研究
- 日系アメリカ人を取りまく環境と彼らの社会・教育意識について……………田中圭治郎

第一号

- 一、研究所、その付置された目への期待……………鍵主良敬
- 〈昭和五十九年度「一般研究」研究目的紹介〉
- 一、『教行信証』章節の共通表示化への研究……………幡谷 明
- 一、真宗寺院史料の研究……………大桑 斉
- 一、近代文学における仏教的諸相……………渡辺貞麿
- 一、保育者養成機関における宗教教育の現状と課題……………松村尚子
- 一、ツォンカバ造「義未了義論善説心髓」の解説研究……………片野道雄
- 一、ゲーテの『ファウスト』研究——『ヴァルブルギスの夜』について——……………岸 繁一
- 〈海外仏教研究・研究会報告要旨〉
- 1、The Catholic Church and Non-Christian Religions……………Lino Bellini (本学非常勤講師)
- 一、アメリカにおける仏教学の現状(上)……………一郷正道 (京都産業大学教授)
- 〈真宗学事研究・研究会報告〉
- 一、真宗学事関係収集資料一覧

第二号

- 一、研究所への期待……………寺川俊昭

〈海外仏教研究・研究会報告〉

一、一九八四——一九八五年度 バリにおける仏教関係講座……………今枝由郎（フランス国立中央科学研究所研究員）

〈海外仏教研究・研究会報告要旨〉

一、アメリカにおける仏教学の現状（下）……………一郷正道（京都産業大学教授）

一、『像法決疑經』の新研究……………ウェイレ・ライ（カリフォルニア大学デービス校教授）

一、浄土教における臨終体験……………カール・ベッカー（大阪大学フルブライト交換教授）

〈海外仏教研究〉

一、第一回仏教・諸文化国際会議について……………箕浦恵了

一、昭和六十年「一般研究」選考結果

三、「指定研究」の動向

◎真宗学事研究

「真宗学事資料の研究」

昭和五十九年度における指定研究「真宗学事研究」は、本年度のテーマを、昨年度に引き続き「真宗学事資料の研究」と定め、高倉学寮成立から現在の大谷大学へ至る、真宗大谷派「学事」に関わる資料を、広く収集・整理し、その研究を行った。

本年度の「真宗学事研究」班は、六名の研究員、三名の嘱託研究員、そして若干名の研究補助員・資料整理員という構成であったが、資料の収集・整理作業を嘱託研究員・研究補助員・資料整理員が、研究を研究員・嘱託研究員が行う形で進められた。

まず、収集・整理作業の面をみると、五十八年度までに大谷大学に蔵される近世「学事」関係資料の多くが、コピー又はマイクロフィルムで収集されているため、本年度は主に近代以降現代までの資料に重点をおいた収集がなされた。さらにその整理作業は、五十八年度同様、「真宗大谷派学事年表」の作成を最終的目標とするカード化作業を中心に行うことであり、本年度は特に近世資料を中心に据えたが、生の近世資料から直接カードをとることが困難であり、一旦原稿化する必要があったため、その作業に、資料整理班の多くの人員と時間を要した。そのため本年度におい

ては、昨年度に比べると、余りカード化作業は進展しなかった。しかしながら、反面高倉学寮の基本資料たる「上首寮日記」が、全五巻のうち三巻余り原稿化され、今後の研究での利用度が高まった。

次に、資料の研究面では、年度始に各研究員が各自のテーマを提示し、それを随時研究会において発表・討議する形式をとった。そのテーマは、大きく講師や教学者など、人物に関する年譜を作成し、それに基づいて、その人物の行動なり教学なりを検討したり、高倉学寮の組織や制度面を明らかにするなどの、具体的「学事」研究の方向と、「学史」概念の検討を含む、「学史史」研究の方法論を課題とする方向との二方向をとった。その発表は、後掲した研究会で行われたが、「学史史」研究の方法論が話題となる一方、「学事」の具体的研究が始まるなど、「真宗学事研究」の最終目標たる、大谷大学三百年史編纂への歩みを見ることができよう。

さらに、このような研究を補完するために、外部講師による公開講演会も開催された。本年度は、近世が研究の中心であったため、近世における一般教育のあり方、また儒教等近世の諸思想、さらに他教団の学事、等の面での講師招聘が企画されたが、人選その他諸事情により、近世の一般的教育に関する講演会をもつのみに終り、その他は本年度に持ち越さざるを得なかった。

以上、昭和五十九年度「真宗学事研究」は、概略このような研究経過をたどった。尚、本年度開催された研究会・講演会は以下のものであった。

〈研究会〉

一、五月三十一日

「本年度の研究テーマについて」……………各 研究員

二、七月十二日

「高倉学寮の組織について」……………嘱託研究員 草 野 顕 之

三、十月十八日

「学研究と門末教化」……………嘱託研究員 木 場 明 志

四、十一月二十二日

「恵空年譜について」……………研究員 大 桑 齊

嘱託研究員 経 隆 優

五、三月十四日

「香月院深励師年譜考」……………研究員 江 上 浄 信

「学史における歴史意識」……………研究員 鈴 木 幹 雄

「公巖年譜について」……………研究員 若 槻 俊 秀

〈講演会〉

一、十二月十四日

「日本近世における民衆教育の性格」……………関西大学教授 津 田 秀 夫氏

(昭和五十九年度嘱託研究員 草 野 顕 之)

◎海外仏教研究

「海外における仏教研究の文献・資料に関する研究」

仏教研究における国際化が、ますます進展している。「海外仏教研究」プロジェクトは、海外における仏教研究の現状をさぐり、仏教研究の方法を研究するために昭和五十七年に発足し、三年間の研究を続けてきた。

昭和五十七年度・五十八年度においては、北米における仏教研究を対象に、その動向を把握するために、学内学外の研究者を招き研究会をおこなった。資料検討会においては、北米における仏教研究の論文、特に浄土教関係の論文をとりあげ、その内容・方法論を厳密に批判し、検討した。

資料収集については、北米を中心にしての研究資料を主にし、ビブリオグラフィーを作成した。

昭和五十九年度においては、前年度の研究を継続しつつ、フランスにおける仏教研究の動向をさぐり、文献資料の収集に着手した。そのために基本的な文献目録をあつめ、逐次刊行物の収集をおもにおこなった。

なお、五十九年度の研究会、資料検討会、資料収集、ビブリオグラフィーの作成については、次に順次報告する。

〈研究会〉

定例の研究会は、特にフランスにおける仏教学の事情を知るために、フランスの学者を招き、当地における仏教学の現状、ならびに方法論について話していただいた。その他海外の仏教研究者を招き、研究発表をしていただき、

研究員との意見交換がなされた。

一、五月二十九日

「フランスにおける仏教学研究」…………… Dr. Robert Duguenne (法宝義林研究所員)

二、七月一〇日

「フランスにおける仏教学の現状」……………

Prof. Jean-Noël Robert (フランス国立中央科学研究所主任研究員

・フランス高等学院宗教学部講師・海外仏教研究嘱託研究員)

三、一〇月二五日

「像法決疑經について」…………… Dr. Whalen Lai (カリフォルニア大学デービス校教授)

四、十一月二一日

「浄土教における臨終体験」…………… Dr. Carl B. Becker (大阪大学フルブライト交換教授)

五、十二月一八日

安富信哉・宮下晴輝両先生を囲む茶話会・並びに海外仏教の展望についての話し合い

六、二月二〇日

「インド仏教における一切智の概念の発達」…………… Alexander Naughton (真宗総合研究所客員研究員)

なお、Dr. Whalen Lai の研究発表要旨は「像法決疑經の新研究」と題して、また、Dr. Carl B. Becker のそれは「浄土教における臨終体験」と題して、共に『研究所報』第一二号に掲載されている。

〈資料検討会〉

海外における仏教研究の方法論をまなび、それを批判的に検討するための資料検討会がもうけられた。

- 一、六月五日 Ming-wood Liu: "The Doctrine of the Buddha-Nature in the Mahayana Mahaparinirvana Sutra" (*Journal of the International Association of Buddhist Studies*, vol. 5, no. 2, 1982, pp. 63-94)

報告者 Robert F. Rhodes 嘱託研究員

- 二、六月一九日 前回の続き

- 三、一〇月一六日 Alfred Bloom: "Tannisho: Resource for Modern Living"

報告者 安富信哉研究員

- 四、一一月二〇日 Carl B. Becker: "Religious Visions. Experiential Grounds for the Pure Land Tradition" (*The Eastern Buddhist*, vol. XVII, no. 1, 1984)

報告者 山野俊郎研究補助員

さらに、箕浦恵了研究員が、インドにおける "The First International Conference on Buddhism and National Cultures" に出席され、その報告がなされた。

- 一一月四日 "The First International Conference on Buddhism and National Cultures に参加して"

報告者 箕浦恵了研究員

その内容については『研究所報』第一二号に「第一回仏教・諸文化国際会議について」と題して発表されている。

〈ビブリオグラフィの作成〉

欧米における仏教学関係著書・論文のビブリオグラフィの作成は、「海外仏教研究」発足当時からおこなわれてきた。今年度は作成されたビブリオグラフィを補充することにとめながら、フランス語の著書・論文を一九六〇年から一九八〇年に限ってリストアップする作業がおこなわれた。その結果、著書カード約二〇〇枚と論文カード約二二〇枚を作成することができた。また、本年度補充された分も含めて、英語のビブリオグラフィでは、著書・論文をあわせて約四〇〇〇枚のカードが収集されている。

〈資料収集について〉

本研究では、ビブリオグラフィを作成するための基礎資料として、欧米で発表されている仏教関係の研究書を積極的に収集しており、また、それらを学内外の研究者の利用に供している。

さらに、本年度はフランス語文献の収集を中心におこない、四四五冊の本を収集した。その内訳は次のとおりである。

英語	三〇八冊
仏語	五八冊
独語	六三冊
日本語	一〇冊
その他	六冊

なお、三年間を通じて収集した図書は、一二〇〇冊を越えている。また、仏教研究に必要なと思われる逐次刊行物を五〇種類ほど購入している。

(昭和五十九年度研究員 長崎法潤

嘱託研究員 ロバート・F・ローズ

研究補助員 山野俊郎)

◎西蔵文献研究

「大谷大学所蔵の北京版西蔵大蔵経及び蔵外文献の文献研究」

本研究は次の二部門より成る。

一、北京版西蔵大蔵経丹殊爾部の勘同目録の編纂

二、蔵外資料の研究

「一」の勘同目録の編纂は、昭和三十三年に本学において影印出版された北京版西蔵大蔵経を、他の二版（デルゲ版、ナルタン版）と対校し、その題名を初め、章題、著者名、訳者名、校訂者名などの異同を検討し註記して、研究者の便宜を計ることを目的とするものである。丹殊爾部の勘同目録の編纂は、昭和四十年に第一分冊が出版されて以来、営々として継続されてきた。昭和五十九年度には第七分冊（般若部と中観部）がほぼ完成し、六十年五月末に出

版の予定である。

「二」の研究に関しては、本学には上記の大蔵經（印度文献の西藏語訳）以外に、寺本婉雅や能海寛らの諸師によってもたらされた西藏文献が四千点以上も保存されている。このような膨大な収集は世界にも類がなく、内容的にも極めて貴重な資料を数多く収めている。昭和四十八年にその目録（『西藏文献目録』）を出版し、昭和五十五年に目録の和訳を出版して以来、国の内外から資料の問い合わせや公開の要望が数多く寄せられるようになった。

本学ではそれらの希望にそうべく、かねてより数名の研究員が文献調査を行ってきた。しかし乍ら、内容が、仏教では顯教密教の全般に及ぶものであることは言うに及ばず、歴史や語学を初め医学や天文学に至るまで、西藏文化の全域にわたっているため、内容調査の作業に長い時間を要した。その仕事も昨年度末を以て、文献の正式な題名の索引、略書名の索引、著者名の索引、内容項目別分類索引という索引類の原稿の完成という形で、一応の成果をあげることができた。五十九年度は、その再検討と西藏語タイプライターによる原稿の作成が、当研究の主たる作業であった。この作業も年度内にはほぼ完成し、六十年代中には出版する運びとなっている。

この作業と並行して、稀覯本を影印出版するための準備を進めてきた。本学にのみ保存されている西藏文献は数十点にのぼると思われる。現在は、その中で影印出版すべき文献を選定し、その内容や著者などに関する紹介文を作成することに着手する段階に来ている。

また、上記『西藏文献目録』の完成以後、本学は更に多くの西藏文献を購入してきた。これらの文献に関しても、その内容を調査し、目録を作成し、索引類を作り、既刊の『西藏文献目録』及び現在ほぼ完成している索引類に対する補遺として出版することが、研究者の便宜のために取り急ぎ為されなければならないことである、と思われる。

以上、本研究の五十九年度までの進捗状況を今後の計画と共に報告した。

(昭和五十九年度研究員 小谷信千代)

◎大藏經學術用語研究

「浄土教関係典籍における學術用語の総合的研究」

大藏經學術用語研究会の本年度の研究課題は、浄土教関係典籍における學術用語の総合的研究で、当研究所の指定研究(委託研究)である。この研究は、『大正新脩大藏經』第八十三・八十四卷に所収の日本撰述浄土教関係諸典籍(日蓮宗関係を含む)について、厳密な解読と學術用語の分類研究を行い、その研究成果を『大正新脩大藏經索引』第四十三卷統諸宗部六として出版することを目的としている。既報のごとく、本研究が発足する以前の四年間は、『大正大藏經』七十二・七十三・七十四卷に所収の日本撰述華嚴宗関係典籍(戒律関係を含む)における學術用語の研究を遂行し、当初の計画どおり昭和五十九年二月末に『大藏經索引』第三十九卷統諸宗部二を上梓した。従って前年度は、華嚴宗関係索引の出版に関する最終的な点検作業をするともに、仏教系六大学の研究協力を得て浄土教諸典籍についても、各テキストの性格や用語の選定に関して問題点の整理および検討を行なったのである。この研究経過をふまえて本年度は、浄土教関係の総索引の出版を約二年後にひかえて、四名の研究員が、囑託研究員一名、研究補助

員二名、および本学の真宗学専攻の院生諸氏の助力を得て、当該の全典籍にわたって學術用語の選定（線引）を行なった。さらに約十二万語にも達する選定用語を學術用語カードに収録し、一部については分類研究を開始したのである。

『大正大藏經』第八十三・八十四卷に収められる浄土教典籍は、八世紀より十八世紀までの浄土教諸師の代表的な著作が網羅されている。大別するに、法然・房源・空を宗祖とする浄土宗の各派、親鸞を宗祖とする真宗、江戸時代の融通念仏宗、珍海や源信などの南都・叡山の浄土教など、日本浄土教の多岐にわたる諸典籍が含まれている。しかもこの藏經中には『往生要集』『選択集』『教行信証』などの漢文体のものと、『黒谷上人和語灯録』『歎異抄』『蓮如上人御文』などの和文体のものが、双方ほぼ同比率の割合で編入されているのである。このような漢・和二種の諸典籍について學術用語の研究をなし、漢語と和語の両項目が含まれる総索引を作成するという試みは、日本撰述に特有な新たな問題も生じた。そこで、漢文・和文のどの典籍であっても、用語を選定する際には、単語または短かい熟語として選定するという原則に立った。和文の場合には、ひとつの用語が比較的長文になる恐れがあった。しかし、後の作業の、三十項目分類や五十音配列にも影響を与えること、漢語との不調和をきたすことが予想されたので、ひとつの用語を最少限度の長さにひかえることに努めた。用語を説明したり限定を加える必要の生じたものについては、従来の方法にならって、線引段階でその作業を行なった。例をあげると、光明寺和尚（『善導』、論註（『無量壽經優婆提舍願生偈註』）というように補った。と同時に、説明した語からも用語を検索できるように、善導↓光明寺和尚、無量壽經優婆提舍願生偈註↓論註という項目（見よ項目）を、五十音索引の該当箇所に入れる予定である。とくに和語の中には、片仮名の用語のみでは意味の通じにくい例があるので、スス（『珠數』）、エソ（『蝦夷』）などのように、必要に応じて漢語を補うことにした。

周知のごとく大藏經索引は、音次索引（五十音索引）・分類項目別索引・檢字索引・四角號碼索引）から成り、これに収録典籍の解題および凡例を付して完成をみるに至る。本年度は、音次索引の作成を中心に研究と作業を進めたことになる。すなわち、『選択集』をはじめとする八十五点の浄土教典籍と『立正安国論』等十三点の日蓮宗典籍について、千二百九十ページ分のテキストの解読研究と用語の選定およびカード化の作業が行なわれ、ほぼ所期の目的を達成できたと考えている。この大藏經學術用語研究は、三年度にわたり文部省科学研究費補助金総合研究（A）の交付を受けている。その最終年度に相当する昭和六十年代末には學術用語の研究をほぼ終え、総索引に供すべき各原稿を完成することを目ざして、次年度からは、分類項目別索引の作成を中心に研究を進める予定である。

（昭和五十九年度囑託研究員 一色順心）

執筆者紹介

(昭和五十九年度)

研究員 岸 繁一……………本学教授 独文学

研究員 渡辺 貞 磨…………… 本学教授 国文学

研究員大桑 齊……………本学教授 日本仏教史学

研究員 喜多川 恒 男……………本学助教授 国文学

研究員 片野道雄……………本学助教授 仏教学

研究員 土戸敏彦……………本学専任講師 教育学

嘱託研究員 仲野良一……………本学非常勤講師 国文学

嘱託研究員 ロバート・F・ローズ (Robert F. RHODES) 本学非常勤講師 仏教学

研究補助員 山野俊郎……………本学特別研修員 仏教学

ポール・L・スワンソン (Paul L. SWANSON) 仏教学

John C. MARALDO 北・フロリダ大学準教授 哲学